

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/ユニットA)

事業所番号	2775802008		
法人名	三友企業有限会社		
事業所名	アイケアホーム瓜破		
所在地	大阪市平野区瓜破南2丁目4番3号		
自己評価作成日	令和4年10月6日	評価結果市町村受理日	令和4年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事や外出の企画内容の充実・工夫 入居者のADLの維持に努めた支援 手作りの食事
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年11月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平野区の南部に位置し周りには多数の工場や会社が存在し、当建物の目の前には大和川が流れ見晴らしが良く市内の街並みや沈みゆく夕日が見られる。事業所は2ユニット1事業で開設して17年を過ぎ、当地に移転して10年、建物は広くゆったりと開放的でカウンター越しの職員スペースは何時でも利用者と触れあえる。在職16年介護従事25年の管理者は食事は利用者と一緒に手作りして一緒に食べる・歩行困難になっても一緒に歩く・食事は自分で食べると、利用者の残存能力を活かして生活して頂きたいと、職員のスキルを高め支援についている。コロナ禍であっても運営推進会議を開催し(書面1回)花見やイルミネーションに車窓ドライブし運動会に家族を招待し、家族からは利用者の笑顔が見られ安心したとの声が届き、皆が理想とするグループホームの姿が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット・事務所内に理念を掲げ、毎週月曜日に朝礼で復唱を行い、実践に繋げる努力をしている。	事業所理念を「家族的な雰囲気の中で笑い溢れる温かみのある生活が出来るように支援します」「入居者一人ひとりの心に寄り添い、楽しみや悲しみを共感しあえる関係を築きます」としてフロア・事務所に掲げ意識できるようにしている。毎月曜日の朝礼で唱和し、ミーティングでも話し合い実践に繋げている。重要事項説明書に記載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域との繋がりは難しい立地であり現状コロナ禍の中、地域行事への参加もできていない。散歩時の挨拶程度である。	自治会に加入し回覧版を貰い情報を得ている。介護相談の呼び掛けを事業所の窓に掲示して受け入れの用意をしている。町内会の草引きの清掃活動に参加して他の事業所と交流している。祭りの見学やボランティアの受け入れをコロナ収束後は再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターを通じて、支援の窓口になったり 道路に面した窓に相談窓口のステッカーを貼っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催を行い、ご出席の方々より意見や助言を頂きながらサービスの向上に活かせるように努めている。	運営推進会議は2か月に1度自治会長・他事業所事務長・家族・地域包括支援センター職員・管理者が参加して事務所で開催し、事業所の行事・ヒヤリハット等現況報告をして参加者からは意見や助言を受け運営に活かしている。議事録は家族に郵送している。コロナ蔓延時の会議は1回書面開催としている。	年6回の運営推進会議は関係者参加の下開催しているが、民家の少ない地域でもあり、運営推進会議の参加者に工夫をされて広く意見を受けられる機会とすることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から密に連絡し、報告や相談であったり助言・指示に基づき支援手続き等がスムーズに図れるように協力関係を築く仕組みはできている。	介護保険課に申請や書類の提出をしたり電話で相談をしている。生活保護課のケースワーカーが訪問して聞き取り情報を伝えている。コロナ感染情報や研修の情報はメールで受け、抗原検査キッドを受け取り感染予防の手袋・消毒液の支援物資を受け取っている。グループホーム連絡会に加入し情報交換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束と同様に虐待についても防止の徹底を図り、ミーティングの際も含め常に話し合い、取り組んでいる。 6か月に一度は自己点検シートの活用も行っている。身体拘束とされる行為はゼロである。	身体拘束適正化の為の指針を作成し年2回の研修を実施している。委員会を2～3か月に1度開催して、職員は議事録を確認して点検シートでチェックを行い、管理者はシートを基に面談をして不適切ケアのない取り組みをしている。家族了解を得て立位不安定な利用者に人感センサーを利用し、1・2階のフロア間は自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の中でも必ず、虐待・不適切ケアについての議題を取り上げ、ユニット別ミーティングで更に話し合う機会を設け、防止に取り組んでいる。身体拘束・虐待については内部研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部研修で学ぶ機会があったり、制度について分からないことは、地域包括支援センターと連携を取り制度を活用できる支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等に際しては、分かりやすく説明し、質問に応じて十分に理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているも活用されておらず、面会や電話連絡時に御家族様との会話の中で意見や要望を傾聴し、運営や支援に反映している。入居者様には日々の会話の中から反映に繋げている。	家族には電話で利用者の生活情報を伝え2か月に1度写真を載せた「アイケア通信」を送っている。家族からは電話や運営推進会議でエアコンのスイッチや洋服の選択の件等の意見を聞き、聞いた要望は都度答えて会議で話し合い対応している。利用者から外に出たい要望には散歩に出て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を提案し易い環境・関係性は構築できている。又、ミーティングや個人面談での機会もあり反映させている。	毎月ユニット会議を開催し早出・遅出の役割や行事・業務改善の件など気づいたことを話し合っている。毎月目標を決め達成度を図り次期目標を決めて、意識向上に繋げている。職員は個々に身体拘束委員、事故対策委員をしている。管理者は随時面談をして職員の意見や困りごとを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善制度を利用し賃金の改善を行っている。勤務日数や時間は希望に沿って柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、外部研修の機会は断たれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため交流の機会はないが、必要に応じて他のGHの管理者と情報共有や相談等を行い サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・面談時にご本人様から十分傾聴の上、職員間で情報を共有し、サービス導入の段階では全員周知を図り、本人との信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・申し込み・面談の段階で、十分な聞き取りやご家族様としての不安・要望を傾聴。早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居1か月間は暫定プランとして立案。1か月の間に現場の職員が介護記録とは別に観察記録に記入したものを含め、本人が必要とされていることをプラン作成に活かし支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、生活の知恵を教わったり、残存機能を活かしたお手伝いをして頂きながら、喜怒哀楽を共にしやりがい・生きがいを感じて頂けるように信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、面会の自粛や例年のような行事参加をしていただく機会が少なく、ご本人様の様子を書面や電話で報告しているが、それ以外に必要なに応じて家人とカンファレンスを実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交通の便が悪い立地であり、ご面会時の送迎をさせて頂いたり、面会時は居心地のよい対応に努めている。又 ハガキや手紙・電話の援助、要望があれば馴染みの場所に出かけることが出来る支援にも努めている。	面会は、時と状況に応じて対応しており、多くは家族や学生時代の友達と話をしている。携帯電話を持ち家族と話をしている利用者や、葉書を書いたり電話の取次ぎをして貰っている利用者もいる。誕生日に息子さんからファンの五木ひろしのDVDをプレゼントされ喜ばれている方や、家族から写真を持ってきてもらい懐かんだり、またそのような場所へ出かける個別支援をしている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を日頃から観察の上、円滑な交流を支援している。席の工夫やトラブル時の介入、洗濯たたみなどを一緒に行っていたりなど入居者同士が多く関われる環境の提供に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても関係性の持続、相談・支援の説明を行い、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を常に心がけ本人の意向・希望を把握することに努め、職員間の情報共有を図っている。又、困難な場合は言動から思いを読み取り、職員間で検討し本人本位のケアに努めている。	入居時に面談をして情報を聞き、アセスメントをして情報を共有している。入居後出来る事・出来ない事の入居観察ノートを作成してシートに記録して共有している。日々の生活の中で現状の思いを聞き個人介護記録に記載して利用者の思いに添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報共有としてのフェイスシートや、ご本人・ご家族様から情報収集を行いアセスメントを作成し、入居前に職員全員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動・支援の内容、その様子や過ごし方を記録し申し送ることで、変化や発見等を職員間で共有している。バイタルサイン測定・食事・水分量 排泄チェック 月に1回の体重測定で健康状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・カンファレンスで日々の支援による評価や課題について検討。日常的に情報交換や共有・支援の工夫などの反映と、ご本人や御家族様の意見・要望を傾聴の上、プラン作成を行っている。	介護計画は短期目標6か月・長期目標1年としている。3か月に1度のモニタリング・カンファレンスをして、家族の要望聞き、診療情報を参考に職員会議で意見交換をして、利用者の歩行状態などを見てプランに反映して介護計画を作成している。利用者の状態の変化時には随時対応してその人にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実施状況は、介護記録に記入し、支援を行う中での気づき等はその都度話し合い、実践やプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに添ったサービスに捉われずに、その時々生まれるニーズや、御家族様が対応困難な外部受診の同行や外泊時の送迎と柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やグループホーム連絡会を通じ、周辺情報の交換・収集を行い支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の主治医往診、週に1回の訪問看護師による健康観察や相談等、医療連携で24時間緊急連絡体制は整っている。訪問歯科も月に2回あり必要者は受診していただき、外部受診にも柔軟に対応・支援を行っている。	全員が契約時の合意により協力医療機関の医師を主治医として訪問診療を受け、必要に応じて歯科医の訪問診療を受けている。その他の専科受診については主治医や訪問看護師と相談し、家族に連絡の上で事業所対応が主となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問日だけでなく24時間体制で相談に応じていただいております。体調不良や異変時にも対応や適切な指示を受け支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の介護サマリーの提出や、御家族様と共に病状や経過説明を受けることや、ご本人様が不安とならないように面会や早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期に対する指針の説明を行い、重度化や終末期となられた場合は御家族様・主治医・看護師と共に方針の共有・話し合いを行い、ご本人様にとって最善となるよう支援を行っている。	入居時に重度化や終末期対応について合意を得ており、状態変化に応じて医師・家族・看護師・事業所での話し合いを重ね、看取り対応に当たるとしている。治療行為に関して11項目に亘る意思表示確認書を有しており、一緒に生活してきた人として、他の利用者と共に時を過ごし自然な形で見送ることとし、昨年末にお一人を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修に取り入れ、学ぶ機会としている。急変時・事故発生時の備えとして、各ユニットにマニュアルを整備し、緊急連絡網を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時の緊急一時避難場所として、隣接する特養と協力体制を築いているも、コロナ禍の為実際の避難訓練は行えていない。火災訓練は年に2回実施。他 内部研修に取り入れ学ぶ機会として職員間でのシミュレーションを行っている。	自主訓練実施と動画による教養型防災訓練を行っているが、夜間想定訓練(シュミレーション含め)が未実施である。地域との協力体制については、建物前が大和川で周辺が工場地帯とする条件の下で、特養との協力体制は欠かせないものとなっている。BCPへの取り組みと職員の意識強化に努力中である。	地理的条件、構造上の課題、利用者の状態、職員の勤務状況などを踏まえ、職員の協議によるBCP作成の推進に期待する。各種災害についての複数回の避難訓練と備蓄品と防災用具の見直し、インフラ停止想定生活体験実施への検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーに配慮した声かけ対応には努めているが、配慮に欠けることもあり、不適切なケアについては毎月のミーティングで課題となることが多く、内部研修を含め都度振り返り意識を高めている。	生活を共にする空間と時間の中で生じる「介護する人・される人」の関係性で、親しさ・親密さが慣れとなって、利用者を尊敬する気持ちが薄れると、言葉の丁寧さも失われがちになることをあらゆる機会に注意し、表情・態度・語調により親しみのある敬語の使い方を習得したいとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に色々な場面で本人の希望や自己決定しやすい声かけの仕方をやっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースの重視に努め支援を行っているが、多少 職員の都合に合わせて頂くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	上下衣類のバランス、髪を整える・髭剃り・爪切りと身だしなみには気配り行えていると思う。衣類の汚れは都度更衣していただき、配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を活かし調理や盛り付け、下膳を手伝っていただいたり、彩りや器への配慮、食事中のBGMなど職員も一緒に食事を摂り、それぞれの好みの把握にも努めている。	昼、夕食は各階ごとに1ヶ月分の献立を全員で考案し、管理者が調達する食材で調理している。朝食は夜勤者が在庫の食材を工夫して調理している。敬老の日の松花堂風弁当、誕生日の寿司、クリスマスのバイキング形式の食事、夏祭りの屋台、週2~3回程度のおやつ作りなど、美味しく楽しく食べることを大事にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の年齢の差が大きく、ここに応じた食事量・水分量 又 食事形態での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声かけを行い、付き添いや介助のもとで口腔ケアの確認を行っている。 義歯洗浄は週に2回、必要に応じて歯科往診でのケアも受けて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサインを把握し、チェックリストをもとに声かけやトイレ誘導を行い、失敗を減らして気持ちよいく排泄できる支援に努めている。	布パンツを簡単にパットや紙パンツ使用にしないなど、それぞれの現状維持に努めること、また、トイレでの自然排泄が利用者・介護者双方の満足感となることを目標に支援している。フアンレストテーブルを設置している。ユニット会議では、個人的な排泄用品の適切な使用法が取り上げられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響については、ほとんどの職員が理解できている。便薬に頼らず日頃より飲食物や運動への働きかけは個々に応じて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や曜日は職員都合になっていて希望には添えていない。但し、入浴を拒まれる方には時間を変えたり、人を変えたり工夫を行ったり、日にちを変更したりして支援を行っている。入浴中はゆっくりとくつろいで頂けるような関わりに努めている。	浴槽に浸れる人、チェア浴の人それぞれだが、先ずその人の身体症状を確認すること、リラックスする時間・場所でのマンツーマン対応でその人との関りが深められること、を意識しての入浴介助を心掛けている。入浴での心地良さが心に残るような介助が、入浴拒否にならないとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や年齢、生活リズムに応じて支援している。日中の活性化を図り夜間の良眠に繋がるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の最近の処方薬の説明書ファイルが、いつでも確認できるよう備えてあり、服薬マニュアルに添って介助の徹底を図っている。内服・外用薬の変更や追加等は申し送りノートで周知を図り、症状や状態の経過・観察・記録に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で個々に残存機能を活かした家事・手伝いで張り合いや喜び・生きがいを持って頂けるよう支援に努めている。今までの生活習慣が出来る限り継続して頂けるようにも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望には支援に努め対応している。コロナ禍の中、約2年間の外出行事は自粛。但し少しでも気分転換にと、花見ドライブ・イルミネーションドライブは行っている。	例年であれば遠足や季節の花見、食材の買い出しなどの外出が楽しみであった。外出自粛の中では、散歩表を作ったの週1回程度の周辺散歩が楽しみとなっている。御堂筋と堺のイルミネーションの車中見学を計画している。誕生日の夕食も1日も早い復活を望んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内で金銭の所持はして頂いてはいたないが、不安を訴える方にはその都度事務所で預かっているのでも必要な時は使用していただける旨を説明し、安心して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば十分支援は行えるが、現入居者からの声はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面飾りや入居者のぬり絵等の作品を掲示するなど工夫を行っている。	電球色の落ち着いた明かりの下、日差しも適度にあり、夫々の身体状態に合わせた椅子が囲むテーブルの配置、テレビの前のソファ、と落ち着いた雰囲気の間兼食堂である。それぞれに工夫された壁面の装飾と、個室の飾りのついた表札、浴室に「ゆ」の暖簾、トイレの標識が日々の暮らしを覗かせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル席・ソファ・ベンチと共有空間の中でも思い思いに過ごせる居場所に工夫を行っている。又、関係性や状況に応じて交流を図ったり、個別ケアの支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様と御家族様で馴染みや思い入れのある家具や物を置き、その人らしく落ち着いて過ごせる居室作りをしていただき、その後はその人らしい居室になるように工夫を行っている。	既設のベッドとクローゼット、小箆箆や机、思い出の写真や小物にテレビなどが並んだ個室は、その人の過ごし方を思わせ、今ある場所の居心地の良さを感じさせ、長期に亘る生活も納得のマイルームとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはドアに大きく表示。各居室には表札があり、キッチン・リビングと一目で見渡せる造りで、出来る限り歩行や移動の障害とならない環境・配置に工夫されている。		